

第2節 環境問題に対する意識

学校における環境教育の充実に伴い、中学生が環境について学び、考える機会も増えつつあります。この節では、地球環境問題を含め、関心のある環境問題、環境のために日頃行っている行動や今後行うべきことは何かについて尋ねました。

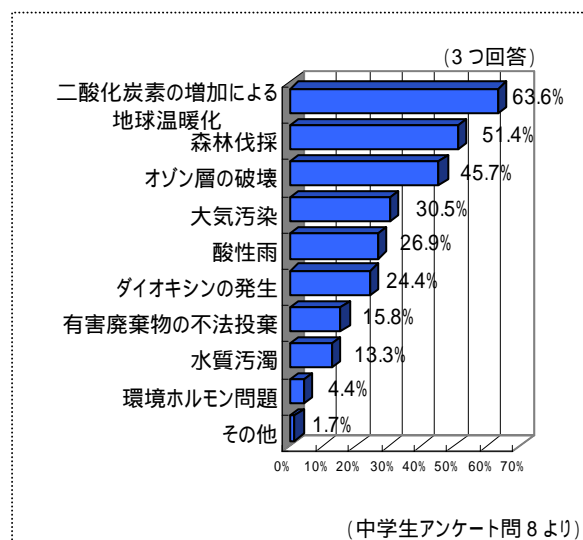


図7 現在気になっている環境問題

1. 現在関心のある環境問題

現在関心のある環境問題について、「二酸化炭素の増加による地球温暖化」が63.6%と最も多く、市民アンケートと同様の結果となりました。次いで「森林伐採」「オゾン層の破壊」の順となっています(図7参照)。

また、「その他」の自由記入欄には、「興味なし」と答えた中学生がいた一方で、「トラックやバスなどが出す黒いガス」「池干し(六呂木池)」「ゴミの増加」「田んぼにマンションがたっていき、汚染される」「野生生物、絶滅しそうな動物の減少」「多摩川にたまちゃん発生」を挙げた中学生もいました。

2. 環境のために行っていること

環境をよくするための行動について、「人のいない部屋の電気は消す」「歯磨きや洗顔時は水道の蛇口を閉めている」「誰も見ていないテレビは消す」

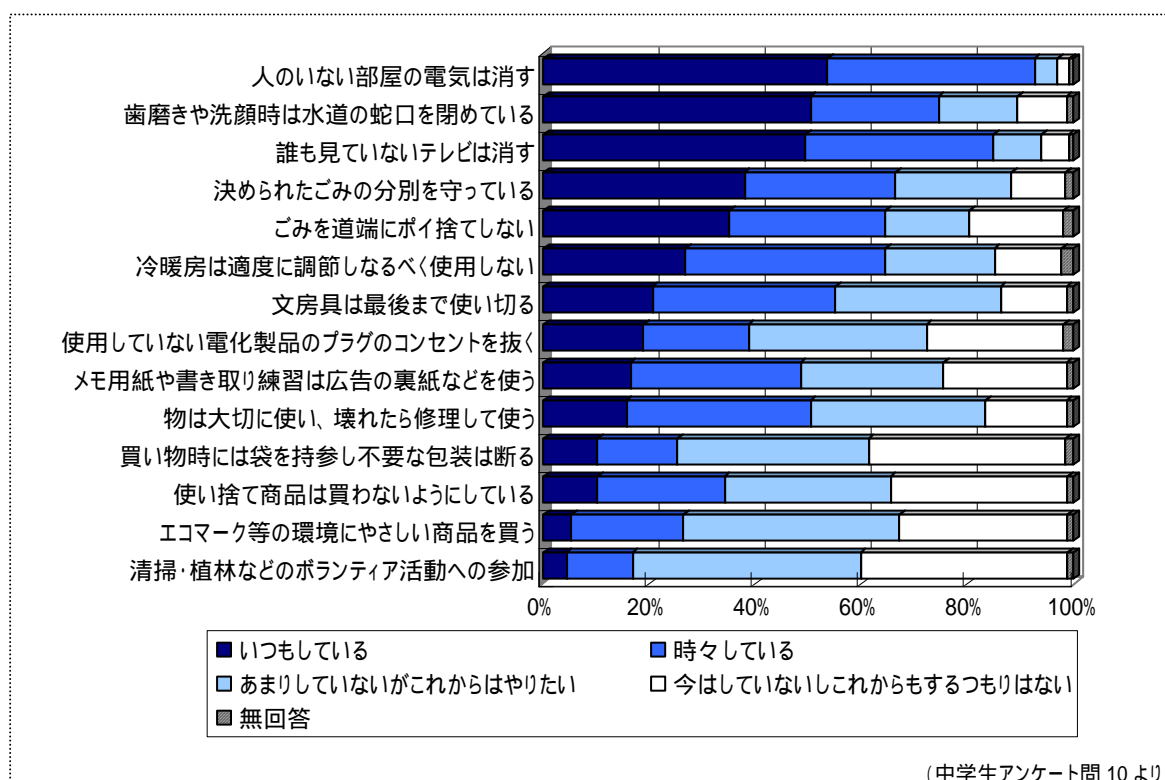


図8 「環境をよくするための行動」の実施状況

では、小学生アンケートと同様に「いつもしている」と回答した中学生が多い結果となりました(図 8 参照)。

しかし、例えば、「誰も見ていないテレビは消す」について、小学生アンケートは「いつもしている」が60.7%であったのに対し、中学生アンケートでは49.5%と小学生に比べて少ないなど、全体的に中学生よりも小学生の方が、環境行動を行っているという結果になりました。

また、項目別にみると、節電・節水は比較的行っていますが、「物は大切に使い、壊れたら修理して使う」「使い捨て商品は買わないようにしている」など、資源を有効活用し物を大切にすることについては、小学生と同様にほとんど意識して行っていないという傾向がみられました。これは、次々に新製品が発売される現代の社会状況を反映した結果かもしれません。加えて、「買い物時には袋を持参し不要な包装は断る」などの、少々手間のかかる環境活動に関しては、行っていない中学生が多いことがわかりました(図 8 参照)。

3. 環境のために今後行うべきこと

「今後、どのようなことをしたら環境は良くなると思いますか」という問いに対して、「川・水辺をきれいにする」が58.1%と最も多くなりました。次いで、「山林に木をたくさん植える」「ごみを減らす取り組み」「野生生物の保護」という結果になりました。(図 9 参照)

特に注目すべきことは、市民アンケートで選んだ人が少なかった「山林の保全」「野生生物の保護」を選ぶ中学生が多いことです。一方、市民アンケートで上位であった「高齢者や障害者に配慮したまちづくり」「下水道の整備と合併処理浄化槽の普及」については、中学生では「高齢者や障害者にやさしい町づくり」が17.3%、「水路(下水道)の整備」が7.2%となり、市民に比べて低い結果となりました。(p.2 図 3 参照)

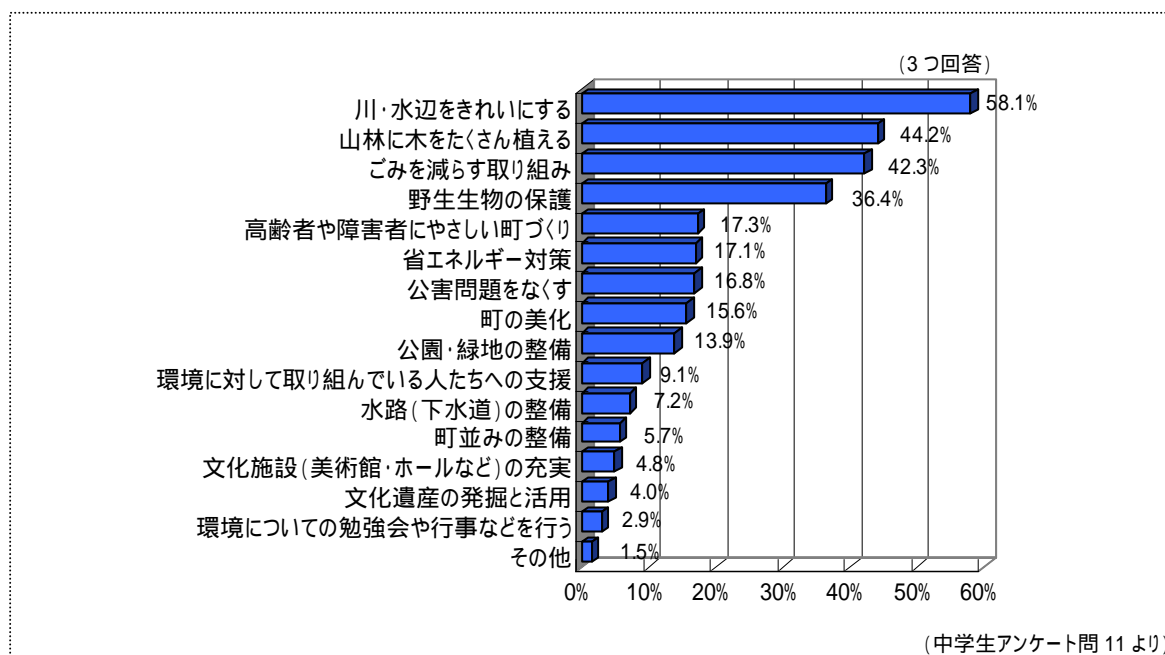


図 9 今後どのようなことをしたら環境は良くなると思いますか

4. 環境活動の主体

「環境をよくするための取り組みをするときに、誰が積極的に行うべきだと思いますか」という問いで、中学生では、「市民、企業(会社)、市(行政)がそれぞれの立場から協力して取り組むべき」が44.4%であり、「私たち市民が中心となって取り組んでいくことが大切」が35.2%でした(図10参照)。

また、自由意見で「小泉総理大臣」「市長も積極的に参加すべき」「世界各国が中心となって取り組む」「(市民、企業、行政と)アメリカが協力して取り組むべき」など、それぞれの意見を持っていることがわかりました。

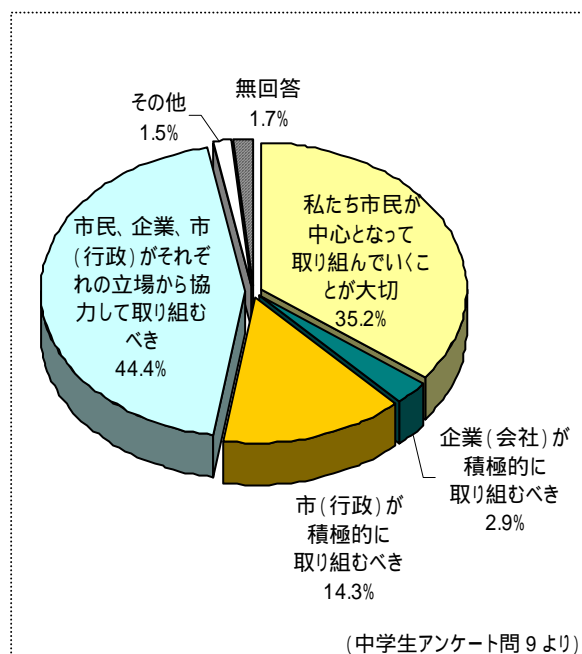


図10 環境をよくするための取り組みをするときに、誰が積極的に行うべきだと思いますか

まとめ

全体的に環境に対する意識の高い小学生に比べ、中学生では、環境に対する意識の高い中学生と、それ程興味がない中学生に分かれる傾向があります。同様に自由意見も様々な意見があり、いろいろなものに興味を示す年代であることがわかりました。

現在関心のある環境問題では、地球温暖化や森林伐採、オゾン層の破壊など身近な環境に対するも

のよりも地球規模の環境問題に関心があり、小学生と比べ、より広い視野で環境問題を捉えることができることがうかがえます。

日常生活における取り組みについても、中学生は小学生と同様に、節電や節水はよく行われていますが、物を大切にすることなどの資源の有効活用という点ではそれ程行っておらず、物が豊富にある時代に生まれた背景を反映したものとなりました。循環型社会の確立に向け、子供たちには、物の大切さを日常生活を通じて教えていくことが必要であると考えます。

また、環境活動の主体に関しては、環境をより良くしていくのは自分たちであるとの認識を、多くの中学生が持っていることから、今はそれ程興味がなくても、粘り強く環境教育を続けることで、将来率先して環境保全に取り組む大人になる可能性を多分に秘めているのではないかと思います。

それに加え、環境を改善するにはどうしたらよいかということも、多くの中学生がしっかりと認識しているように思われます。しかし、「下水道の整備」「合併処理浄化槽の普及」といった具体的な施策に結びつけることはできていません。また、高齢者や障害者にやさしいまちづくりには関心が低いなど、普段の生活でそれ程関わりのない施策に対しても関心が低いように思われます。今後は、これらの具体的な施策を、いかにして子供たちの日常生活に結びつけるかが大きなポイントであると考えられます。

キーワード

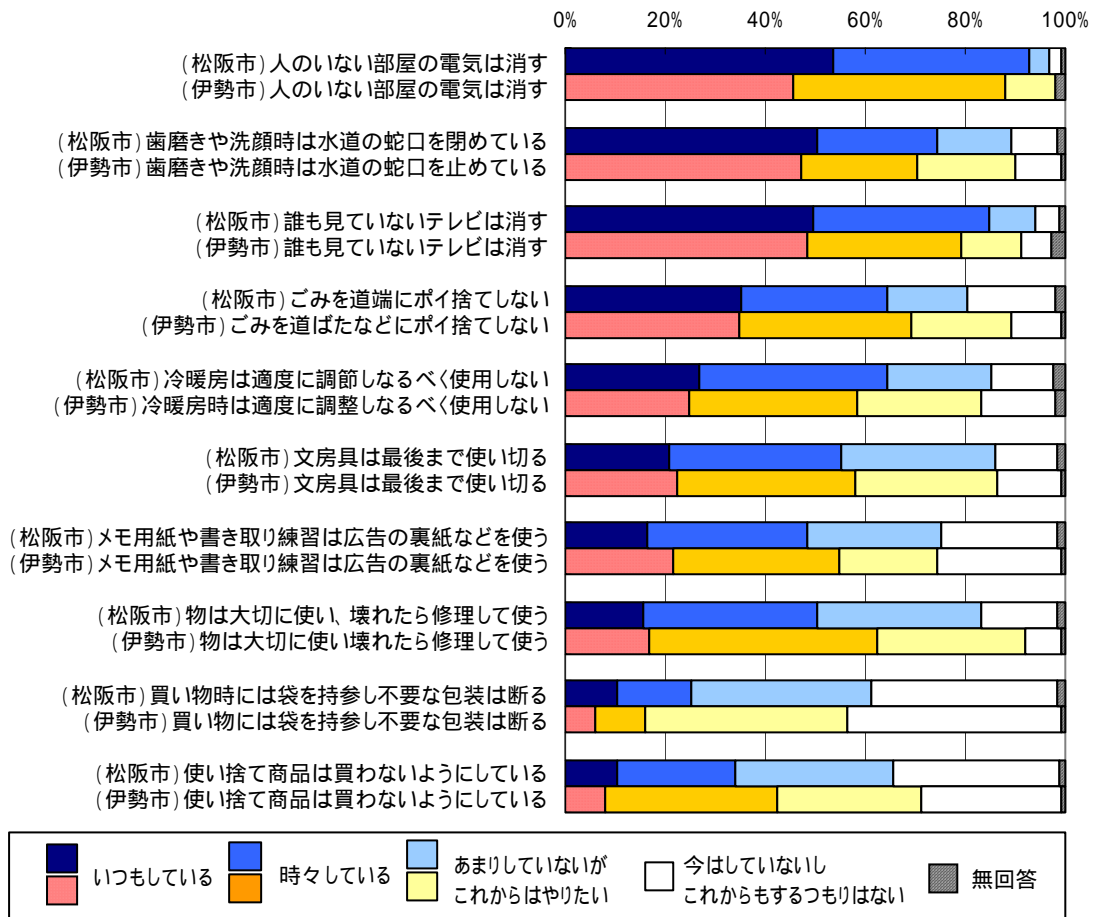
地球温暖化

環境学習

森林と野生生物の保護

コラム2 環境を良くするためにやっていること～伊勢市の中学生アンケート結果との比較～

環境をよくするためにやっていることについて、伊勢市で行った中学生アンケートと比較したところ、「ごみを道端にポイ捨てしない」「物は大切に使い、壊れたら修理して使う」の項目では、当市の方が行っていない中学生がやや多いという結果となりましたが、全体的に大きな差はみられませんでした。



参考資料：伊勢市環境基本計画策定に関する中学生意識調査(平成11年3月実施 中学2年生200人)
(松阪市中学生アンケート問10より)